

高隅山縦走

【報告者・参加者】 I 上 ki

【日時】 2019年5月10日

【天候】 晴れのち曇り

《コースタイム》

6:30 猿ヶ城溪谷(刀剣山登山口)～7:35 刀剣山3峰(展望台立ち寄り)～8:07 刀剣山2峰～8:12 刀剣山1峰(20分)～8:49 横岳登山口～9:49 横岳(17分)～10:16 平岳～10:58 二子岳～11:09 妻岳(14分)～11:49 御岳(25分)～12:43 スマン峠～13:07 小籠柄岳～13:49 大籠柄岳(22分)～15:30 垂桜登山口～16:55 下山

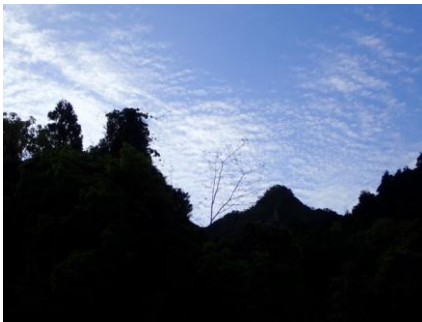
《報告》

高隅山とは鹿児島県の右側に位置する大隅半島にそびえたち、標高 1,237 メートルの大籠柄岳(オオノガラダケ)を主峰に、1,000 メートルを超える七つの峰が連なり各方面からの縦走路が開けているお山。大籠柄岳の「籠」は「スズダケ」の意味で地元では柄(ガラ)とも呼び以前一帯でスズダケに覆われていたことに由来。また地元では大籠柄岳のことを本岳とも呼び霧島山と並び称せられた古くからの霊山で修験道の本山として山伏たちの修行がなされたそうで、その名残として各峰には今も多くの石祠が残されています。高隅山の中心に位置する妻岳は昔はスマン岳(須磨嶽)と呼ばれ、地形的に鹿屋・垂水の隅(スミ)に位置することに由来。その麓の峠がスマン峠です。また本山から北東に位置する大崎町野方から見上げる高隅連山は鷹が羽根を広げたように望まれ、太古の時代、南九州の山々に住みついてきたとされる「熊襲」の勇ましい情景が連想させられるとのこと。

どのルートで登ろうか模索してたけど…せっかくなら 1000m 超えの 7 座を歩きたい。しかし縦走の記録を探しても全部行ってる人の記録を見つけれず、高隅山ピークハントトレイルのコースも横岳が入ってない…時間的なことも考えてスマン登山口よりスマン峠に登りそこからピストンというコースを当初計画。しかし、雨で 1 日延期となり、スマン峠までの道路は大丈夫だろうか? と思い、とりあえず雨がやんだので前日猿ヶ城まで行ってみることに。すると…災害後の影響で猿ヶ城溪谷は遊歩道や橋は崩壊しており、ここからスマン峠への道路は通行止めでした。刀剣山の登山口があったので刀剣山について調べてみると、ここから高隅山を周回している方がいる記録を発見。ルートサインもあり迷わないとのことで、急遽ルート変更をして刀剣山経由で高隅山巡りをしてきました。

朝、改めて猿ヶ城溪谷へ車を走らせて準備をし出発。刀剣山は 7 峰まであり、沢登等もされている様子。シルエットもカッコいいです。最初は猿ヶ城溪谷を歩くのですが、数年前の災害で橋等は崩壊しており、注意が必要もルートサインもあり登山道までは大崩山みたいな感じでした。水はエメラルドグリーンでとっても綺麗。登山道に取り付くと最初は樹林帯の登りで、途中にはヤッコソウの自生地もありました。鎖場もありますが、鎖がなくても登りやすかったです。稜線に到着すると展望台は 3 峰下でとりあえず行ってみるとそこに山頂石碑があり、これから向かう山が見渡せました。引き返して第 2 峰経由で 1 峰へ。1 峰からは桜島がバッチリ見えました。横岳へは看板があり、看板通りに進むと元林道らしき道に出てそのまま進むと横岳登山口に到着しました。横岳への道の踏み跡は少し浅い感じでしたがルートサインもあり問題なく横岳へ登れました。横岳からも桜島が見えて遠くには開聞岳も見渡せました。小休止をして次へ。平岳と双子岳は通過点という感じで展望はなし。妻岳へ向かっていると…暑す

ぎるせいで体がだるく、息があがりはじめ、まだ先は長いのに心配になり、エスケープルートも考えつつ先に進みました。無事に妻岳に到着すると妻岳からはこれまでに歩いて来た山が見わたせました。妻岳では予定よりも少しおしており、御岳をスルーするか悩みましたが、妻岳分岐まで行くと少しだけ早く到着できたので御岳へ。御岳に近づくと今日初めて人の声。すると…迷彩服の方々が溢れかえっておりました。人がいっぱいでしたが、御岳からの景色が一番良かったので記念撮影後にお昼休憩をとりました。再出発し小籠柄岳へ。歩き始めるとガスってきてしまいましたが、おかげで少しは暑くなくて無事に歩けました。小籠柄岳からは御岳が見えそうでしたが…残念ながらガスで見えませんでした。そしてラストは大籠柄岳。ここもガスっていましたが、最後の休憩をして下山ルートを再確認し下山。ここまではよかったです…大籠柄岳からの下山は大変でした。とても滑りやすくて用心しているにもかかわらず尻もちをついてしまいました。心も折れかけたけど車に帰り着くまでが登山と言い聞かせて進み、垂桜登山口に到着して一安心。しかし…駐車場まではまだまだ。登山口からまっすぐに九州自然遊歩道を通り猿ヶ城まで。ルートサインはありましたが、雨天夜間は大変危険と書いてある看板があり、そこからはノンストップで下山。災害の爪痕があり用心して歩きました。疲れきってしまいましたが、鹿児島島の奥深い印象の縦走路を歩くことができ大満足の山行でした。



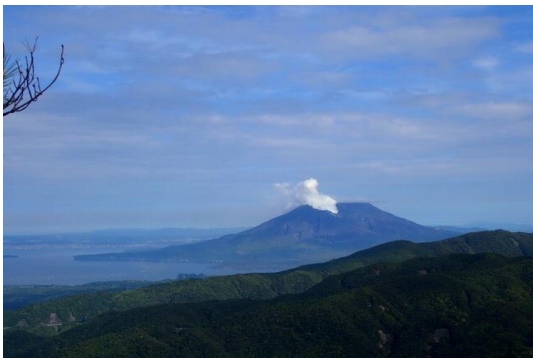
刀剣山のシルエット



猿ヶ城溪谷



鎖場



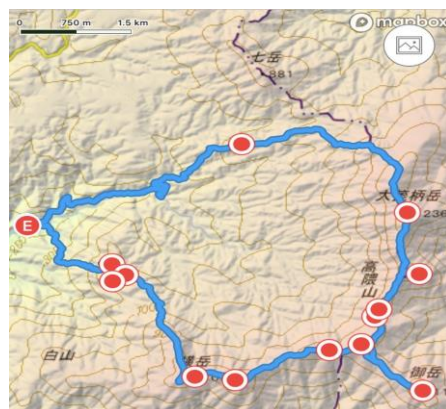
桜島



御岳手前より横岳・平岳・二子岳・妻岳



山頂標識



ルート概念図